



# NIHU現代中国地域研究 拠点連携プログラム 第3回国際シンポジウム

NIHU 人間文化研究機構・当代中国地区研究基地聯合項目第三屆國際學術會議  
NIHU Network of Contemporary Chinese Studies 3<sup>rd</sup> Symposium

2010年1月30日(土)～1月31日(日)  
京都大学百周年時計台記念館  
(百周年記念ホール)

京都大学百周年時計台記念館百周年記念大庁  
Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

## 環境問題—中国の未来可能性

环境问题: 中国的未来可能性

Environmental Issues: The Futurability of China

日中英同時通訳・参加費無料

Japanese, Chinese and English (Simultaneous interpretation) / Admission free

主催 人間文化研究機構(NIHU)現代中国地域研究拠点連携プログラム  
NIHU Network of Contemporary Chinese Studie

共催 京都大学人文科学研究所、総合地球環境学研究所  
Institute for Research in Humanities, Kyoto University, and Research Institute for Humanity and Nature

【申込方法】はがき、FAX、E-mailにて、参加者氏名・連絡先を明記の上、下記までお申し込みください。

【申込締切日】1月22日(金) 定員に満たない場合、当日参加も受け付けます。

【申込先・問合せ先】〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4 総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点

T E L 075-707-2462 F A X 075-707-2509 E-mail: rihn-china@chikyu.ac.jp

1月30日  
(土)

13:30-14:00

**開会挨拶** 人間文化研究機構地域研究推進センター長 平野健一郎  
総合地球環境学研究所所長 立本成文  
**司会者** 石川禎浩 (京都大学)

14:00-15:00

**基調講演** バーツラフ・スミル (カナダ・マニトバ大学)  
China's environment: domestic concerns, global impacts

15:20-17:50

## 第1セッション 中国環境問題の基底—過去と現在

環境問題は、グローバリゼーションといった世界的な動向にその原因がある一方で、地域の社会・経済的な状況と歴史的な背景を色濃く反映し、多様なかたちで表出する。中国の環境問題はきわめて現代的な問題であるが、歴史的に人々が環境の変動や社会の変化にどのように対処したか、議論しておくことを欠くことはできない。文献史学を立脚点とし、自然科学分野との融合といった新たなかたちも加え、歴史的な背景の議論を通して、中国環境問題の根源に迫る。

**司会者**：久保 亨 (信州大学/東洋文庫)

**報告者**：1. 上田 信 (立教大学) 封禁山史略—「商業の時代」から「産業の時代」  
2. 楊 偉兵 (復旦大学) 社会史の視野からみた西南中国の環境—近300年の土地利用を中心に  
3. 中尾正義 (人間文化研究機構) オアシス地域の歴史と環境

**討論者**：1. 飯島 渉 (青山学院大学)  
2. 佐藤洋一郎 (総合地球環境学研究所)

18:30~

**交流会** 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール I・II

1月31日  
(日)

9:30-12:00

## 第2セッション 21世紀の中国経済と環境問題

中国では第9次5カ年計画（1996-2000年）以降、公害問題の深刻化や、重化学工業分野における産業組織の分散化問題を背景に、環境政策を含めた一連の構造調整政策が提起され、21世紀に入ると食糧過剰対策の一環としてバイオエタノールの取り組みも始まっている。また近年ではエネルギー価格の変動や地球的な環境規制の高まりとともに太陽光発電に対する需要が急増し、中国企業による太陽電池産業への参入が国際的に注目されている。本セッションでは東大拠点による研究成果の報告を通じ、実体経済に即して中国の環境問題を論じてみたい。

**司会者：**加島 潤（東京大学）

**報告者：**1. 王 京濱（大阪産業大学） 中国の重工業発展と環境・構造問題  
2. 田島俊雄（東京大学） 中国の農産物需給とバイオエタノール問題  
3. 丸川知雄（東京大学） 世界をリードする中国の太陽電池産業と日本の課題

**討論者：**1. 塩地 洋（京都大学）  
2. 大西 広（京都大学）

12:00-13:00

### 昼食

13:00-15:30

## 第3セッション 環境問題の政治社会学

環境問題は、すぐれて政治、社会の問題である。環境が急速に破壊されるとまず警鐘を鳴らすのは被害者であり、取り組むのは、ある時は政府、ある時は企業、ある時は地方自治体である。日本などの経験では、被害者や地域からの異議申し立てが環境悪化の抑止につながったケースが多い。いまの中国のシステムで、被害者による異議申し立てのルートはあるのか、地域社会が自立的に取り組むことは可能なのか。本セッションでは、異議申し立ての制度と可能性、政策実施過程における監督検査体制、環境問題にかかわるNGO運動、などから「中国の環境」に迫る。

**司会者：**唐 亮（早稲田大学）

**報告者：**1. 張 玉林（南京大学） 環境を巡る二次被害とその構造  
2. 大塚健司（アジア経済研究所） 中国の環境政策とローカル・ガバナンス—地方主義、監督検査、環境民主  
3. 王 名（清華大学）・藍煜昕（清華大学） チャレンジアンドチャンス—気候変化に対応する中国のNGOの行動

**討論者：**1. 加茂具樹（慶應義塾大学）  
2. 児玉香菜子（千葉大学）

15:50-17:50

### 自由討論

**司会者：**毛里和子（早稲田大学）

**討論者：**バーツラフ・スミル（マニトバ大学）、中尾正義（人間文化研究機構）、田島俊雄（東京大学）、  
王名（清華大学）

閉会挨拶 現代中国地域研究拠点連携プログラム座長 山田辰雄

## 趣旨

改革開放以来、中国は25年以上にわたって平均10%近い経済成長を続けている。それは、環境問題と引き換えに実現されてきたといっても過言ではない。急激な経済成長は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染といった公害問題とよばれた従来型の問題群のみならず、砂漠化問題、生態環境保護（自然保護）問題、さらには地球温暖化問題といった現在の問題群とに同時に直面している。一方で1980年代以来の環境関連法の整備など、国家的な環境への取り組みは、一部では環境改善がすすむなど、実を結びつつあるようにも見える。とはいえ、環境問題が単に技術的な問題ではなく、社会そのものに起因していることを考えれば、中国の政治、経済、社会に関わるさまざまな問題と、その構造は同じである。

本シンポジウムでは、中国の環境問題について、多様な研究分野を有する現代中国地域研究拠点の特徴を生かして、歴史、経済、政治・社会の3つの異なる側面からその現状を明らかにするとともに、中国環境問題の今後を見定める。

## 議題

改革开放以来，中国经济以近10%的年平均增长率，持续了25年以上高速发展。如果说这是以环境问题为代价而实现的，丝毫也不过分。伴随着经济的快速增长，不仅带来诸如大气污染、水质污浊和土壤污染等传统性的诸多公害问题，同时还面临着沙漠化、生态环境保护（自然保护）、以及全球变暖等各种新生问题。另一方面，我们也看到20世纪80年代以来，中国政府一直专心致力于环境的保护，不断完善并出台环保相关法规等，并在部分领域推进环境的改善，收到明显成效。尽管如此，环境问题绝不单纯是一个技术上的问题，如果将社会本身的起因考虑在内，它的结构型式与中国的政治、经济和社会相关的各种问题别无二致。

在本次研讨会上，就中国的环境问题，充分发挥拥有多样化研究领域的现代中国地区研究基地的特点，从历史、经济、政治社会这三个不同的侧面来阐明中国环境问题的现状，同时辨清中国未来的环境问题。

## Objectives

For the past 25 years, ever since the Economic Reform and Opening, China's economic growth has continued at an average of approximately 10%. It is no exaggeration to say that this has been achieved at a cost of environmental issues. Rapid economic growth leads to confrontations not only with the existing problems of pollution, such as air pollution, poor water quality, and soil contamination, but also at the same time to modern problems such as desertification, biosphere protection (environmental protection), and global warming. Meanwhile, state involvement in the environment, such as the provision of environmental laws since the 1980s, looks to be tied to such fruits as the progress of partial environmental improvements. However, when we consider that environmental issues are not merely technical, but also caused by society, the various problems involving Chinese politics, economics, and society, and their makeup, are the same.

This symposium not only clarifies the current state of Chinese environmental issues from the three aspects of history, economics, and politics and society by bringing into play the characteristics of modern local Chinese research bases in various disciplines, but also ascertains the future of Chinese environmental issues.

### 交通機関

#### 【バスをご利用の場合】

- ・ JR・近鉄京都駅より206系統バス35分、京大正門前下車/17系統バス35分、百万遍下車
- ・ 阪急河原町駅より31・201系統バス25分、京大正門前下車/3・17系統バス25分、百万遍下車
- ・ 地下鉄烏丸線今出川駅より201系統バス15分、京大正門前下車/203系統バス15分、百万遍下車

#### 【鉄道をご利用の場合】

- ・ 京阪出町柳駅より徒歩20分

#### Traffic Information:

##### 【By Bus】

- ・ Kyodai-Seimon-Mae Stop:  
#201 from Imadegawa St. (Karasuma Line)
- ・ Hyakumanben Stop:  
#17 from Kyoto St. (JR and Kintetsu)  
#3 and #17 from Kawaramachi St. (Hankyu)  
#203 from Imadegawa St. (Karasuma Line)

##### 【By Train】

- ・ 20 min. walk from Demachi-Yanagi St. (Keihan)

